

日米和親条約170周年記念特別展

Conferenz Perry's mit d...

Part1

Part2

奉神奈川 行奈川

奉外国 行外国

幕末の外務省

2024年9月21日(土)~10月20日(日)

開館時間: 9:30~17:00(入館は16:30まで)

休館日: 月曜日(ただし、祝日の場合は開館し翌火曜を休館)

入館料: [各期]一般 500円 小・中学生 / 横浜市内在住65歳以上 250円

[Part1・2共通入館券]900円(前売800円)

毎週土曜日は高校生以下無料

開港都市を治める

2024年10月26日(土)~11月24日(日)

開館時間: 9:30~17:00(入館は16:30まで)

休館日: 月曜日(ただし、祝日の場合は開館し翌火曜を休館)

入館料: [各期]一般 500円 小・中学生 / 横浜市内在住65歳以上 250円

毎週土曜日は高校生以下無料

外国奉行と神奈川奉行 —幕末の外務省と開港都市—

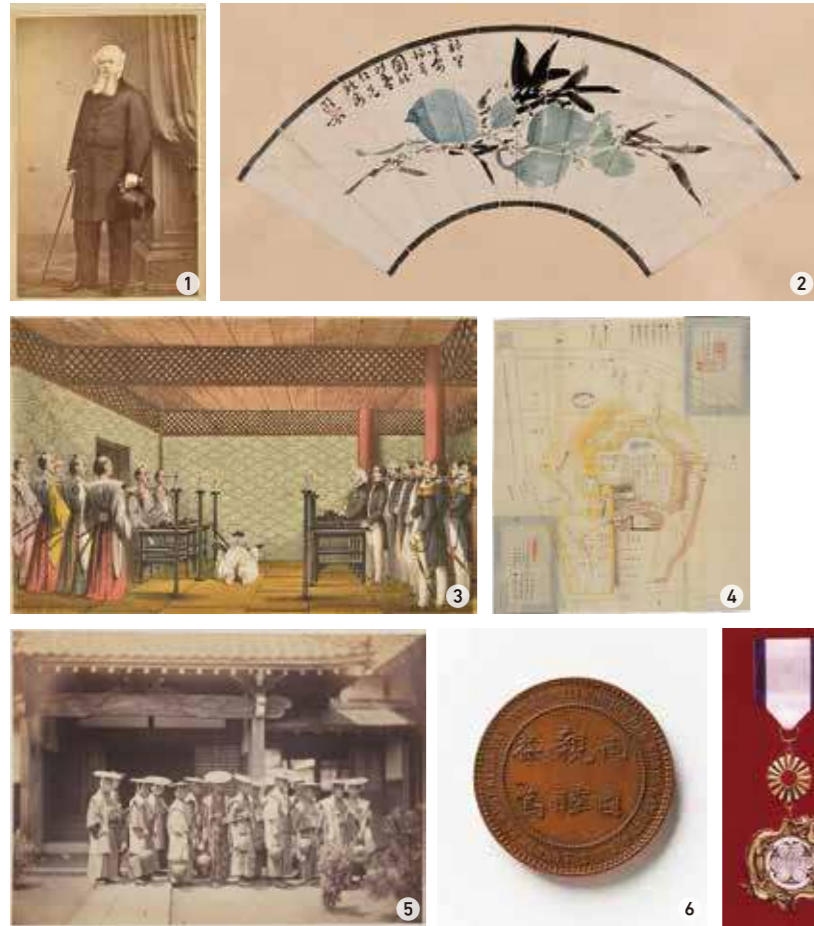
今年は安政元年(1854)に横浜で日米和親条約がむすばれてから170周年にあたります。この条約の締結によって、日本は欧米諸国と恒常的に外交をおこなう必要に迫られ、幕府は安政5年(1858)外国奉行(外国方)を創設します。一方、安政6年(1859)に開港された横浜には神奈川奉行が置かれることになりました。

外国奉行と神奈川奉行の研究・展示は、これまであまりおこなわれてきませんでした。外国方は外務省の前身にあたる組織

で、幕末の厳しい国際環境のなか、幕府外交のかじ取りを担います。一方、神奈川奉行(所)は神奈川県の前身機関で、開港場周辺の行政をおこないつつ、居留地で外国人との折衝も担当したのです。このふたつの組織の検討は、近代の日本外交のルーツを考えるうえでひじょうに重要です。

今回の展覧会では、ふたつの組織の実態や幕末の「外交官」たちの姿、そして開港都市横浜の様相を、古写真・絵画・絵図・古文書など総計約150点の資料から紹介します。

Part1 「外国奉行—幕末の外務省」



- ① 初代駐日アメリカ総領事ハリスの肖像写真 当館蔵/当館が今年入手した初公開資料。タウンゼント・ハリスの写真は国内では他に所蔵が知られていない。
- ② 岩瀬忠震の描いた扇面 当館蔵/軍艦奉行木村喜毅の旧蔵品。初代外国奉行の文雅に富む一面を垣間見る。
- ③ 日英の交渉風景 オリファント『エルギン卿遣日使節録』当館蔵/外国奉行たちはイギリスと修好通商条約の交渉をおこなった。
- ④ 外国公使館の絵図面「善福寺境内御固諸家持場絵図」東京大学史料編纂所蔵/麻布の米国公使館の図面。外国方の詰所も見える。
- ⑤ 外国人の護衛部隊・別手組 当館蔵/攘夷事件により外国方は外国人警備専門部隊を設立する。
- ⑥ 日蘭親善メダル 個人蔵・国立歴史民俗博物館寄託/外国奉行柴田剛中の旧蔵資料。昨年同館に寄託された資料群から、今回約30点を出陳。
- ⑦ 幻の徳川葵勲章 松戸市制作 1998年 松戸市戸定歴史館蔵/最幕末に制作が企図された幕府の勲章。

*掲載資料はパネルで展示する場合があります。

関連企画 事前予約制(展示解説を除く)。詳細は当館ホームページをご確認ください。

● トークライブ
「幕末の外交官を深掘りする！」
10月9日(水)13時30分～16時
「幕末外交文書の紹介」
講師: 小野将氏(東京大学史料編纂所准教授)
「ハリスからみた幕府外国方」
講師: 福岡万里子氏(国立歴史民俗博物館准教授)
各40分程度の講演のあと、幕末の幕府「外交官」について講師と展示担当者が語り合います。
司会: 吉崎雅規(当館主任調査研究員)
会場: 当館講堂 参加費: 500円 定員: 40名

● 特別展関連講座
①「外国奉行—幕末の外務省」
10月20日(日)15時～16時30分
②「神奈川奉行—開港都市を治める」
11月16日(土)15時～16時30分
講師: 吉崎雅規(当館主任調査研究員)
会場: 当館講堂
参加費: 各500円 定員: 各40名

● まち歩き
「神奈川奉行所ゆかりの地を歩く」
11月13日(水)14時30分～16時30分
案内人: 当館・横浜市歴史博物館の学芸員
出発地: 当館 解散地: 京急「戸部」駅付近
当館から出発して運上所跡・神奈川奉行所跡など神奈川奉行所に関係する史跡をおもにめぐります。横浜市歴史博物館との連携事業。
参加費: 500円 定員: 20名

当館ホームページへはQRコードから



展示構成

Part1 「外国奉行—幕末の外務省」

2024年9月21日(土)～10月20日(日)

- 1 ペリー来航とハリスの応接 黒船来航絵巻は必見!
- 2 外国方の仕事と組織 武蔵村山に残った外国奉行井上清直の資料を展示
- 3 攘夷事件と別手組 隊士武島金三郎の古文書から検討
- 4 慶喜の外交、そして外務省へ 駐仏公使向山隼人正に注目!
トピック 外交官の肖像 / 柴田剛中の資料 / 英国大使館の外交文書

Part2 「神奈川奉行—開港都市を治める」

2024年10月26日(土)～11月24日(日)

- 1 神奈川奉行の設立 貴重なビエール・ロシエの古写真を展示!
- 2 奉行所の組織と施設 神奈川奉行支配調役小笠原甫三郎の資料にも注目
- 3 攘夷事件と開港場の警備 横浜周辺の警備絵図から考える
- 4 神奈川奉行所の終焉 最後の神奈川奉行依田盛克の資料を出陳!
トピック 下田と長崎 / 通詞 / 兵庫開港

Part2 「神奈川奉行—開港都市を治める」



- ① 野毛の神奈川奉行所役人の屋敷 ロシエ撮影 安政6年(1859)当館蔵/横浜で撮影された現存最古のステレオ写真。
- ② 神奈川奉行所の関連施設図「御役所其外地割絵図」当館蔵/開港場とその周辺にあったさまざまな幕府施設が明らかになる。野毛は「官舎街」だった。
- ③ 横浜の運上所と街「横浜本町并港崎町細見全図」五雲亭貞秀画 万延元年(1860)当館蔵/画面右手中央が運上所(税関)。波止場のすぐそばに立地し、外国人から関税の徴収などをおこなった。
- ④ ふたりの神奈川奉行「文久遣欧使節松平康直・京極高朗写真」東京大学史料編纂所蔵/松平康直(左)は初代「専任」神奈川奉行として横浜で辣腕をふるった。のちに外国奉行にも就任する。
- ⑤ 青木町会所の御留用 文久元年(1861)～3年 福生市教育委員会寄託(石川酒造株式会社蔵)/神奈川奉行所の関係文書を綴った古文書。生麦事件の報告書も含まれていた。
- ⑥ 神奈川奉行支配定役山本謙兵衛のガラス板写真 当館蔵/下岡蓮杖が撮影した神奈川奉行の属僚のショット。

*掲載資料はパネルで展示する場合があります。

アクセス



〒231-0021 横浜市中区日本大通3
TEL.045(201)2100

- ・みなとみらい線「日本大通り」駅 ④番出口から徒歩2分
- ・JR「関内」駅南口・市営地下鉄「関内」駅 下車徒歩15分
- ・JR「桜木町」駅から市営バス「日本大通り駅県庁前」・「大さん橋入口」 下車徒歩1分

http://www.kaikou.city.yokohama.jp/
X @yoko-archives
Instagram @yokohama_kaikou

